

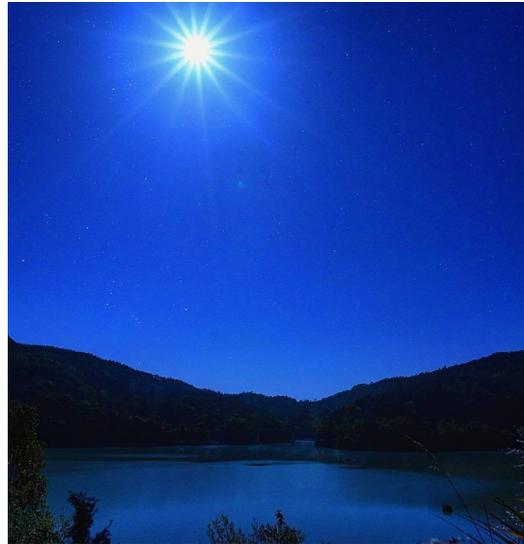
# マルセイニュース 11月号

発行日 2016/11/22

株式会社 マルセイ

浦河町東町うしお1丁目

〒057-0005 TEL.0146-22-5123



## 今年のいずし、「おいしくなあれ」は魔法のことば

今年も残すところあとひと月ほどになりました。  
「おいしくなあれ」。82才の母がたくさん並んだすし樽に手塩を振るときの魔法のことばです。今年も無事にいずしを漬けることができ喜んでいましたが、良かったね。大切にもらっている人たちの応援のおかげです。

浦河出身の三上あいこさんの手書きアニメ作品が、新千歳空港国際アニメーション映画祭2016で「ロイズ賞」を受賞されました。感性の賜物(たまもの)でしょうか。実家の大黒座でたくさん映画を観ながら育きましたのでしよう。おめでとございます！

美しい風景写真は、友人Kくんと浦河観光協会の中川さんが撮った写真です。「観光の目的地として注目してもらおう素材として、多様な体験プログラムを増やしたいです！」。法人として独立した浦河観光協会では観光地として認知してもらおうための地道な取り組みを始めます。乗馬が目的で浦河に連泊したお客様が、他にも楽しめるような体験はないかとインターネットで検索。オオワシとオジロワシを観察するプログラムを知って、参加する方も現われています。

天然記念物に指定されるオオワシや美しい星空とその風景。私たちの日常こそが宝物の浦河ですね。

マックス



オオワシ・オジロワシ  
ウォッチング

鳥のオオワシやオジロワシを見に行くと、浦河町観光協会が主催する「オオワシウォッチング」です。料金は1000円です。

2016.11.8 - 2017.1.22

ガイド料 (浦河町で含まれます)

5,400 円 (12歳以上の大人)

2,700 円 (6歳~11歳の小人)

時間 (日によって出発時間が変わります)

6:00~8:00 前後の早朝 2 時間

浦河港で新鮮なにしんが獲れたとあって、急きよ、にしんのいずしも漬けました。「お母さんからしっかり習っておいてね」と言われますが難しいですね〜。笑 さてさて、冬が来ますね^^ 飛来しているオオワシやオジロワシも、そろそろ見に出かけたいですね♪

1、今年もあと1ヶ月余りです。早いですねー。師走に向けて寒さにも負けず、風邪などひかないように頑張りましょう。



## お客様に必要な『暮らしのサポート』で お役に立てる会社を目指しています！

マルセイは、今期で40年を迎えます。灯油とガスの家庭用燃料販売と廃棄物の収集運搬処理のクリーン事業を二本の柱として営業を続けてきました。「ライフライン」であるガスと灯油の販売を続ける中でお客様からご相談をいただき、私たちに出来ることなら・・・と、ひとつずつお応えできることを積み上げてきたのが、マルセイでの『暮らしのサポート事業』です。



まずは、「借金のない健全経営の会社を目指そう！」。「お客様と信頼関係の持てる会社にしよう！」。そして、毎日のことだもの、「楽しく仕事をしよう！」。これは、わたしたちがこの十数年、意識して志してきた目標です。

**私たちの目標は  
毎年少しずつ  
自分たち自身で  
会社を良くしていくこと**

毎日をどんなふうに通きたいのか。どんな仕事をしていきたいのか。そのためには、マルセイはどんな会社であつたらいいのか。毎年少しずつ、自分たち自身でこの会社を良くしていきたい。こんな思いで努力を重ねて来た中、マルセイでは昨年今年と2人の若者を社員として採用することができました。40年の歴史の中でも初めてです。

兄弟の若者二人の採用となりましたが、うれしいことに、「良かったねー」とそのことを私たちと同じように喜んで下さるお客様の声が届いています。ありがとうございます。

お客様が必要とされる『暮らしのサポート』にお応えするために必要な「技」と「心」を学びながら、彼らと一緒に、これからは粘り強く取り組んでいきます。

社長

## 株式会社マルセイ 第39期決算 「税務申告」も終了しました！



今年も事務仕事の外に、あらゆる日常業務をこなしながら税務申告書の作成に奮闘したばわふるさん。健康診断を間近に控え、同時進行でダイエットにも励んでいましたが、どうやら今年はこちらもバツチリ？ 例年だと「社長、申告終了のご褒美は焼肉です！」となるところが、「私、本気でダイエット継続中ですの！」と今年は「食欲の秋」もなかったようです。それにしても、今年の申告書作成もお疲れさ



11月10日(木)、今年も無事に税務申告を終了しました。当社では創業当初から会計事務所さんに依頼しないで、会長自ら「税務申告書」を作成してきました。この税務申告書担当のバトンには、会長から社長、そしてばわふるへと渡されて今へと続いています。

いつも日を選んで提出します。今年「大安」の日が税務署の休日と重なり、「友引」の10日に提出してきました。



## 『危険物施設の立ち入り検査』がありました

危険物取扱者免状の提示が必ず必要とされますが、当社では、女性たち二人も含めた社員全員が危険物取扱の資格所有者です。今回の提示からは、この夏に資格を取得したケイスケくんの免状も加わりました。

定期検査は毎回緊張するものです。でも、消防署員の専門的な視点から定期的に施設状況を点検していただく機会があることはありがたいことです。繁忙期に向けて、より安全に努めたいと思います。

11月9日(水)、浦河消防署による危険物施設への立ち入り検査を受けました。年に2回、春と秋に実施されている定期的な施設検査です。

施設内タンクの油漏れがないか漏洩点検をする他、タンクローリーやガス庫の消火器類の整備や設置状況など、法律を遵守して危険がないように営業されているかどうかを細かく点検。その他にも、各種点検記録簿や当該施設に係る関係書類の確認なども毎回実施されます。



2. 検査中、上を見上げながら後ずさりした社長がマンホールに足を落として転倒！笑って済んでよかった。以前、マックスはそれで骨折しています。



## 毎日の生活に、ご利用いただけますように… 来年のカレンダーを準備しています！

思いがけない11月の寒さに、背中を押されるように年末業務の準備を始めます。マルセイをご利用いただいているお客様へ、日頃のご愛顧に感謝を込めて今年もカレンダーを用意させていただきました。マルセイ同様に、毎日の暮らしの中でお役に立てただけですように(^\_^) 12月の請求書配布時にお届けさせていただきます。これが配られる頃ははいよいよ師走ですね。

カレンダー配布の用意をはじめ、そろそろ年末に向けての準備が始まりますね。何かと気ぜわしくて忙しい時期を迎えますが、どうぞ、みなさまも体調に気を付けてお過ごしください。

そこで、今年も書き込みができるタイプを選ばせていただきました。かわいくて明るいデザインのカレンダーです。来年も、毎日の暮らしの中で予定を書き込みながらお使いください。

昨年、毎月仕様のカレンダーにバージョンアップしました。お客様のお宅でマルセイの名前入りカレンダーが実際に使用されているのを見るたびに、とてもうれしく感じています。

今年も  
あと少しですね！



## 「ほのぼの号」で配送にお伺いします マルセイの「燃える灯油」を！

11月は本当に寒い日がありましたね。突然、本格的な冬の寒さに見舞われ灯油の注文が相次いで配送に追われた日がありました。この冬の灯油は、マルセイの「燃える灯油」をよろしく！！



さて、この冬の灯油配送も安全を第一に頑張ります！

先日の灯油配送のこと。ご挨拶に立ち寄りさせていただいたマックスに、「あれ、復帰したの？」と声をかけてくれたお客様がいました。そうそう、『オイルレディ』と称してばわふるとふたり、ミニローリーで灯油配送をしていた時期がありました。あのミニローリーも廃車となって今はなく、若い男性社員を迎えたマルセイにはオイルガールの出番はほとんどなくなりました。このことも、私たちが「こんな会社でありたい」と望んで実現できたことのひとつです。(だって、年も重ねていますしね〜笑)

この冬、マルセイの灯油配送を主に担当するのは社長とケイスケくんです。時には、ケイスケくんのサポーターとしてマックスが同乗してお客様のお宅をお伺いします。



慎重に給油しています^^

## 寒さと同時に、ストーブ修理の依頼も続出！



灯油配送中の安全チェックで灯油漏れを発見。緊急の交換工事になりました。タンク点検で交換をおすすめしていたタンクでした。が大事に至らず良かったです。ストーブもホームタンクも、わたしたちの冬の暮らしにとっては必需品。だからやっぱり、早めのメンテナンスをおすすめします。



冬本番並みの寒波が到来。秋を飛ばして冬が始まったような寒い日が続いた週、「ストーブの調子が悪い」「火が消えてしまう」などのご相談が続出しました。寒い最中のストーブの不具合でしたが、その場で修理できる場合にはお客様のお宅に代替ストーブを仮設置して、不具合のストーブは会社に持ち帰り修理をすることも。必要な部品が取り寄せの場合、早く直してお客様に届けても日数が必要となります。

# 高山美香『ちまちま人形展～文豪編～』

11月8日(火)～30日(水) 浦河町立図書館

札幌のイラストレーター・高山美香氏さんが創作した文豪のミニチュア粘土人形をイラストエッセイとともに展示した楽しい企画展が、図書館で開催されています。「文豪」を中心としたわずか10cmほどの小さな人形の数、なんと62体！手のひらサイズの人形なれど、そのどれもが表情たっぷり。作者お得意のイラストと共に添えられているエッセイがまた興味深く楽しめますよ～(^)♪ 図書館へどうぞ♪



芥川 龍之介



ダーウィン



徳川家康 (1543-1616)



忠犬ハチ公



完成までに、大変ちまちまとした作業を根気よく繰り返して作っていく作品ということから、ついた名前が『ちまちま人形』。イラストエッセイを見ながらひとつひとつじっくり見ると、ほんと、勉強にもなるし楽しいですよ～。

期間中の11月13日(日)、『秋の午後の朗読会』がミニシアターで開催されました。札幌で朗読活動をしている「森の声」響組(かんざしぐみ)の三人の方によって、ちまちま人形展とコラボ(共同制作・共同作業)した作品が朗読されました。

## 「風あげおじさん」に出会いました～!

「風が強い日に、堺町グランドで風揚げしているおじさんがいるのを知っていますか？」と若い友人から教えてもらいました。どうやら、堺町小学校の子どもたちから「風あげおじさん」と呼ばれて親しまれている人のようです。なんだか楽しそう～♪と思っていたら、ラッキーなことに出会いのチャンスに恵まれました。さて、子どもたちの「風あげおじさん」はいったいどなたでしょうか？



友人の子どもたちが風を作る約束の日です。楽しみにしていた「風あげおじさん」と初対面。ごあいさつをさせてください。こうと顔を合わせた途端、お互いに「あれ～」。なんと旧知の方でした。そう、おじさん、風揚げおじさんの正体は木村修さんだったのです。 「いやー、風作りは手も動かさず、絵を描くのも好きだからボケ防止のために始めたんだ」。その話しながら、絵を描いている子どもたちを本当に嬉しそうに見守る木村さんです。奥様の東亜子さん共々、子どもが大好きなんです。 凝り性の木村さんは、以前は色々な風車を作っていた。そして、3年ほど前から始めたのが風作り。最初に風が揚がるまでには半年ほどかかったそうですが、研究を重ねながら今では2百枚ほどもあるという自作の風の中から、いくつも見

せていただきました。これは楽しそう～♪今度、私も教えていただきたい、自分でも風を揚げてみたいと思います。 昨年の夏、釣りに出かけた赤波堤で風揚げをして遊んでいた親子に会いました。風を作った風揚げして遊ぶ親子っていいなあ～と思ったことをよく覚えてます。その話をしたところ、「ああ。それ、おれがその人にもらってもらった風だ。そうか揚げてたか。風は揚がってたかい？」。 風強い日には決まって堺町グランドで風揚げをしている木村さん。関心を持って寄ってくる子どもたちに「うちに来て作るかい？」と声をかけることもあるそうです。 そう、この日ワクワクしながら風おじさんの家を訪れた兄弟のように、こうして何人もの子どもたちが木村さんの家で風作りを習い、風揚げを楽しんでいるのです。



住んでいるマンションの住民総会で、小学校の親御さんからこんな提案がありました。「知らない人にあいさつされたら逃げないように教えてあげたい」と。子どもにはあいつをしないように決めてください。子どもにはどの人がマンションの人かどうかは判断できない。教育上困ります、とも。すると、年配の方から「あいつをしてもあいつがかえって来ないので気分が悪かった。お互いにやめましょう」と、意見が一致してしまいました。その告知を出すのですが、世の中変わったなと理解に苦しんでいます。 (神戸西、自営、男56)

これは、「理解に苦しんでいます」という11月4日付けの神戸新聞夕刊からの記事です。 いつもグランドで風揚げをしている風おじさんも知らない人。それなのに、あいつをしあつたり、話が出来たり。あげくには知らないはずの「風あげおじさん」から、経験や知恵を教わっている子どもたち。ふつうに人を信じてあげることができること。しあわせなことだと思えました。





小荒谷 勝さん

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会

## 地域デザインカフェ vol.41

# 『コアラ弁護士の履歴書(仮題)』

と き：2016年11月10日(木) 19時～21時  
と ころ：浦河町総合文化会館 地階 第2研修室

「弁護士過疎」の解消を目指す『すずらん基金法律事務所』が浦河町に『浦河ひまわり法律事務所』を開設して5年。41回目の地域デザインカフェは、この秋、2代目の所長として着任したばかりの小荒谷勝（こあらやまさる）さんをカフェマスターにお招きしてお話をうかがいました。

日弁連や各地の弁護士会の支援により設立される『ひまわり基金法律事務所』は、現在全国53カ所で稼働しています。北海道には弁護士のいない地域に弁護士を派遣することを目的とした『すずらん基金法律事務所』が他の都府県に先駆けて設立され、『すずらん』で研鑽を積んだ弁護士が、ひまわりに派遣されるという流れができています。弁護士への偏在が顕著な北海道だからこそ必要とされた仕組みかもしれません。

小荒谷さんは、昨春から1年半をすずらん基金のある札幌市で過ごし、この10月から浦河町に赴きました。法律の話よりもご自身のお話を聞かせてほしいという私たちのリクエストに、生い立ちから人生の岐路に渡るまで包み隠さず誠実にお話くださった小荒谷さん。大学は法学部に進みましたが、在学中は空手道に専心していたそうで、就職先は法律の分野とは別の大手旅行会社。主に修学旅行の企画・営業・添乗を担当して日々慌しく過ごしているさなか、法律を身近に感じる職務上の出来事がきっかけで、法律を学び直したいという気持ちで沸き起こってきたそうです。

しかし、旅行会社の仕事も充実のときを迎えており、再燃したものを胸に秘めながらの葛藤は5年にも及びました。

### 小さな町で 弁護士として力を 発揮したい

12年間勤務した旅行会社を退社し、法科大学院制度を活用して金沢で再び学生となり、法曹の世界に進むことになりました。その頃から「法的な問題は人口規模にかかわらず存在する」という思いから、弁護士のいない(少ない)地域で仕事に就きたいと考えていたそうです。



た。最終的に小荒谷さんの決断を後押ししたのは、「一度しかない人生なのだから、チャレンジしてみたい」という強い気持ちだったそうです。

この日は小荒谷弁護士の前任者の葉山裕士さんも会場に姿を見せてくれました。相談窓口のなかったこの地域において、初代所長の葉山さんが一つひとつの相談に真摯に

葉山さんと小荒谷さんは共に道外出身です。人生の節目における選択や決断があり、小さな町でこそ力を発揮したいという共通の思いがあった。弁護士として浦河へ赴任されたというお話をお聞きして勇気と感謝をいただきました。お二人の今後の活躍を応援させて頂きたいと思えます。



葉山 裕士さん

向き合い、相談者に寄り添ってきた5年間もまた、挑戦の連続であったと思います。

葉山さんは年明けから岡山県備前市に任期付きで赴き、自治体の中で弁護士としての専門性を発揮することになるそうです。「どんな業務が待っているかは行ってみなければわからない」と笑って語る姿に、葉山さんのチャレンジ精神を垣間見ました。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会  
石黒 建一

## 「プロ」って「プロ」なんだよなあ・・・



この二人が生み出す独創的な音楽は、「最小の編成でありながら緊張感あふれる演奏」と、世界的に高い評価を受けています。結成10年。今なお、自分たちが本当に好きな音楽を！と取り組み続けている音楽を堪能しました。

マックス



グラスアス！この日は日本ツアーの最終日。ウーゴさんの奥さまも飛び入りで演奏♪



# 『この世界の片隅に』

こうの 史代 著 (1968~) 双葉社 出版



最近読んだ  
本の中より...



「なんでうちが生き残ったんかわからんし、晴美さんを思うて泣く資格はうちにはない気がします。」「あんたも目の前で晴美さんを・・・さぞや無念じゃったろうね。」「・・・はい。」この世界で普通で、まともで居ってくれ。それが出来んようなら忘れてくれ。(本文より)

作者の言うとおり、作品は戦時下の日常の些事の描写が過半以上を占めています。海苔をつくる海の水の冷たさ。数センチにちびた(小さくなった)鉛筆を大事に使う。米がないので(楠公飯)を食べる。最後の配給の砂糖をダメにしてしまった悲しさ。そんな逸話とともに物語は進んでいきます。戦時下の話なのに、戦争そのものは描かれていません。唯一あるのは空襲の場面でしょう。呉市は



(わたしは)ときに「だれもかれも」の「死」の数で悲劇の重さを量らねばならぬ「戦災もの」を、どうもうまく理解できていない気がします。そこでこの作品では、戦時の生活がだらだら続く様子を描くことにしました。そしてまず、そこだつて幾つも転がっていたはずの誰かの生の悲しみやきらめきを知ろうとしました。

舞台は広島県呉市。時は昭和九年から二十一年まで。広島市で生まれ育った少女が呉市の海軍に勤める青年に嫁ぎ、戦争を経て戦後の混乱期を生き抜こうとする物語です。作者のこうの史代さんは、あとがきにこう記しています。



巻末でお世話になった方々に謝辞が述べられていますが、その中に「呉での思い出を話してください。おそろくその叔母さんが主人公のモデルでしょう。叔母さんへの丹念な聞き書きを軸にして、この漫画は描かれたと思います。いえいえこれは架空の話です、と作者は言うかもしれません。それは分かっています。ですがわたしには、主人公のすずも、被爆する母や姉妹も、水兵になった幼なじみも、呉の軍港ではたらく夫の青年も、早くに夫を亡くし息子を置いて実家に戻らざるを得なかった義理の姉も、みんな本当にこの世に生きた人としか思えませんでした。作中では昭和19年の12月に、幼なじみの水兵・水原を訪ねて

軍港があったので、激しい空襲に襲われたところでした。となりの広島市の原爆のことも少し触れているくらいです。ちなみに作者は呉市ではなく広島市の出身で、被爆した若い女性を描いた『夕風の街 桜の国』という名作を書いています。



きます。水原の乗艦・青葉はフリーピンで米軍の攻撃を受けて、じつさいにこのとき呉港にようよう戻っています。「死に遅れるいうんは、焦(じ)れるもんですのう」という妻の幼なじみを「水原さん。申し訳ないがわしは今夜、あんたをここへ泊めるわけにはいかん」というところは、この作品の忘れがたい場面の一つです。70年前に、きつこの世界の片隅でじつさいにあった出来事なのだとわたしは思っています。この場面だけではありません。最初から終わりまでこの漫画に描かれていることは、かつてこの世界の片隅で起きたことだと思つて読み終えました。

もういちど、作者のあとがきの一節を紹介して終わりとしましょう。

出会えたかれらのほがらからで穏やかな生の記憶をよりどころに、描き続けました。平成18年から21年の漫画アクションに、昭和18年から21年のちいさな物語の居場所があったこと。のうのと利き手で漫画を描ける平和。すべては奇跡であると思えます。

社長

## “体のメンテナンス”の大切さを実感！ 白内障の手術で、視力が回復しました (^^)



10月中旬、両目の白内障手術のため6日間の入院。この数年、眩しさや見えづらさに困っていた悩みが解決しました！驚くほどクリアーになった視界がうれしく同時に、改めて、けつこう見えていなかったと事実にも驚きました。

人口レンズを目に入れたおかげで近視は随分良くなりました。小学生の時からメガネなしではいられなかった私が、裸眼で本を読めます。針も持てるようになって、パッチワークも再開できそう♪それにしても、自分の顔のシミとしわの多さも見えて、ほんと、マジでびっくりでした！(笑)

最初の左目の手術の後、お見舞いに来てくれた友からの悪意を感じる絵葉書です。(笑)入院中にダイエットも試みた私。お願いした特別食のカロリーが、少なく、どころか私のカン違いで普通食より多かったそう。あーあー...

マックス



久しぶりの入院。健康は宝物だと改めて思うことばかりでした。



左は恭平くんのメガ盛り丼。右はマックスのです



## ガスでおいしくクッキング！

# キャベツのつけ・豚照り焼き丼

「毎月あの料理のページを楽しみにしてるよ～。あそこで一緒に食べてみたいね」と、なぜか人気があるのがこのページです。ということで、9年前に紹介して人気のあったレシピをアレンジしてご紹介。うまい！です^^



### ●材料（4人前）

- 豚バラ肉スライス 350g～
- 刻みキャベツ お好みの量
- しょうゆ 大さじ2
- オイスターソース 大さじ1
- すりおろしにんにく 1片分くらい
- はちみつ 大さじ2  
(砂糖やみりんを使っても大丈夫！)
- マヨネーズ・パセリ



これは普通のスライス肉ですが、7～8ミリの厚切り肉を使って調理。茹でたほうれん草と一緒に盛り付けておかずにしてもおいしです！

### ●作り方

- 1、食べやすい長さに切った豚バラ肉(3等分しました)を、フライパンで焼きます。余分な脂が出るので、いったん火を止め、キッチンペーパーで吸い取ります。
- 2、再び火をつけて、しょうゆ、オイスターソース、すりおろしたにんにく、はちみつ(砂糖やみりんもOK！)を加えて、焦げないように煮詰めます。
- 3、豚肉にほどよい照りができたら完成！ ごはんに刻みキャベツ、お肉をのせて照り焼き丼の完成です♪



チェックのエプロンを付けながら「久しぶりの気がします」と台所に立った恭平くん。この日は7人分とあって、用意した豚バラ肉は1kg！「これ、うまそうですねー」と脂身がおいしいような豚バラを切り、ふたつのフライパンを使って豚バラ肉を焼いていきます。「なんか、楽しいですね～」と笑顔の恭平くん。レシピには、「余分な油は紙ナプキンで取り除く」とありますね。でも、フライパンにたまる透き通った豚バラのおいしいような脂がもったいない！マックスと二人で相談して、思わず小さな容器に取りだして保存。後日、何かの料理に使いましょう～。

下焼きしたバラ肉に合わせ調味料を絡めて、色つや良く、てりてりに照り焼きするだけで完成！それぞれ自分でご飯を盛り、好きなだけ刻みキャベツをのつけて、好きなだけ照り焼き肉ものせました。マヨネーズとパセリはお好みでOK！いやいや、フライパンの中のお肉も完食！みなさま、ぜひお試しください。もちろん、**ガスでクッキング**(^^)ですよ～。(笑)



## 高得点の丼！完食～！

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高★3個?)
社長 (3.0)	★★★ キャベツがまた、絶妙だね～
村下社長 (3.0)	★★★ 豚バラなのに、案外さっぱりしてますね。
ケイスケくん (3.0)	★★★ キャベツがあって丁度いいかんじです^^
マックス (3.0)	★★★ 刻みキャベツにのつけ丼は、野菜もたくさん食べれていいね。おいしかったー。
ばわふる (2.9)	★★★ 肉が焼きすぎて、硬くなったところにあたった分だけ減点～。(笑)
さっちゃん (3.0)	★★★ マヨネーズが合うね～。おいしい(^^)
恭平くん (3.0)	★★★ 作るのも簡単で、楽しかったです！



### 社長のちよつと長いコラム



## 『京都・大阪三千里』

義理の母と一緒に札幌に行ってきた。補聴器をつくるためです。試用と購入のときと都合2回、この一月で札幌を往復しました。遠出のドライブは嫌いではありません。音楽が好きなので、車中で好きな曲を聴くことは無上の楽しみのひとつです。出かける前に「今日は何を聴いていこうかな」と考える時間がすでに楽しい。以前はクルマに積み込むCD選びに時間がかかりすぎて、妻に叱られたりしたのですが最近、大量の曲が入っているipodだけ持てばいいので気軽になりました。便利なものです。

今回は義理の母(以下雅子さん)が一緒にいうことで、ボブ・ディランやニール・ヤングを聴いていくというわけにいきません。正確には一回目の札幌行き(行き)だけは聴いてきました。まだ補聴器がないので、あまり聞こえていないからです。うるさいかな?とたずねると、「ゼーんぜん、聞こえてないから。」とのこと。一安心しました。さて、帰り道です。試用の補聴器を装着している(行き)のときとはちがいます。たぬしに音を出してみるとやはり、うるさいくらいよく聞こえるとのことでした。そこで、唱歌をかけることに。「浜辺の歌」とか



「椰子の実」とかの滝廉太郎や山田耕筰の歌です。あるいは「峠の我が家」のような外国の民謡。これは良かったように口ずさんでいます。しだいにしつかりと歌っています。これはわたしの実母もそう。唱歌を聞く

といつしよに歌い出しますね。遠い遠い子ども時代がなつかしくなるのでしょうか。

二回目の札幌行きは帰り道は昭和歌謡のメドレーです。一曲目はちあきなおみの「喝采」です。妻と三人で、やっぱり名曲だねーと感心したあと、同じちあきなおみの大好きな「矢切の渡し」を聴きました。何度聴いてもこの歌唱はため息が出ますね。雅子さんが、「タカシ(細川たかし)でなくちあきなおみなの?最高だね、これ」というので、元々はちあきなおみの持ち歌だったらしいよと話しました。それから昭和歌謡のオンパレードです。ザ・ピーナツ、フランク永井、橋幸夫と吉永小百合、テレサ・テン、布施明とあきれくらいい聴きました。和泉雅子(二人の銀座)が甘い歌声で意外でした。今の和泉さんとちがいますね。

永六輔・いずみたく作でデューク・エイセスがヒットさせた「女ひとり」という曲があります。京都へ大原三千院♪というあの曲です。あれをかけたときです。雅子さんが、この歌いいねーと言っていたしよに歌い始めました。「京都へ大阪三千里♪」。あれ?なんだか今そういうふう聞こえたなあと思ったのですが、まあ黙っていました。曲が終わるとふたたび雅子さんがいいねーと口ずさみました。「きょうとへ大阪、さんぜんり♪」。ちよつと言いつづらかったのですが言うことにしました。

「それ違うよ。きょうと、おおほら、さんぜんいん、なんだよ」と言う。「えーっ! わたしずつとそうやって歌ってたよ!」と驚いています。わたしが「京都と大阪の間は三千里(1万2千キロ)は…ないねえ」と言ったあと三人で大爆笑。長年にわたる思い込みが解消された瞬間でした。ちなみに京都・大阪間は、たった57キロです。



## さのばわふる日記



子育ても終わり、これからは自分の時間だろと思っていたら親の介護が始まり早二年。つくづく月日が経つのが早いと実感。したいことを早くしないとアツと言う間に人生の終盤になってしまう。そう思った私は、いつものように自分へのご褒美。この一年は旅行三昧でした。金沢から始まり、春には伊勢・飛騨高山。

今月は、琵琶湖、彦根城、養老温泉、犬山城とお天気にも恵まれ息子達と楽しい旅行でした。その時の浦河は1℃だったのに現地は21℃という温度。北海道人には羨ましい気温。そんなポカポカ陽気の中、彦根城に登る坂道を歩いている時の長男の発言がこれ! 「これって結構辛くない? 突撃くと言われても俺は絶対ムリムリ! 行かないで抜けちゃうね。昔の人だって行かないで逃げた人もいたよ。」



続いて犬山城での出来事。駐車場に入ろうとしたら満車なので第二の方に行つて」と言われ、指示通りにそちらへ。すると、「神社の駐車場なので観光の人はダメ。この中で回つて下に行つて」との事。ところが私達の手を見て、「北海道から来たのかい? そしたら、いいいい。一番奥に停めなさい」と親切な対応に感激。「神社で参拝してお賽銭入れていってよ」とおじさん。室蘭ナンバーで北海道と分かってくれたのも嬉しい私。そこで運転していた三男の発言! 「でも、

室蘭ナンバーだけじゃ俺はここに住んでいるのにくいのかな?」と。優しいおじさん達は、はるばる北海道から車で来たと思つたはず。その車は三男の車。臨機応変に対応してくれたお礼も込めて、いつもの五倍のお賽銭をいれさせてもらいました。

今年も自分への褒美をたつぷりしたので、これからの繁忙期も頑張つて働きます!  
この冬の灯油は『マルセイのよく燃える灯油』を宜しくお願いします。

発行 株式会社マルセイ  
灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3500部  
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com  
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください  
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3  
TEL 0146-22-5123

冬季期間(10月~3月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00 土曜3:00